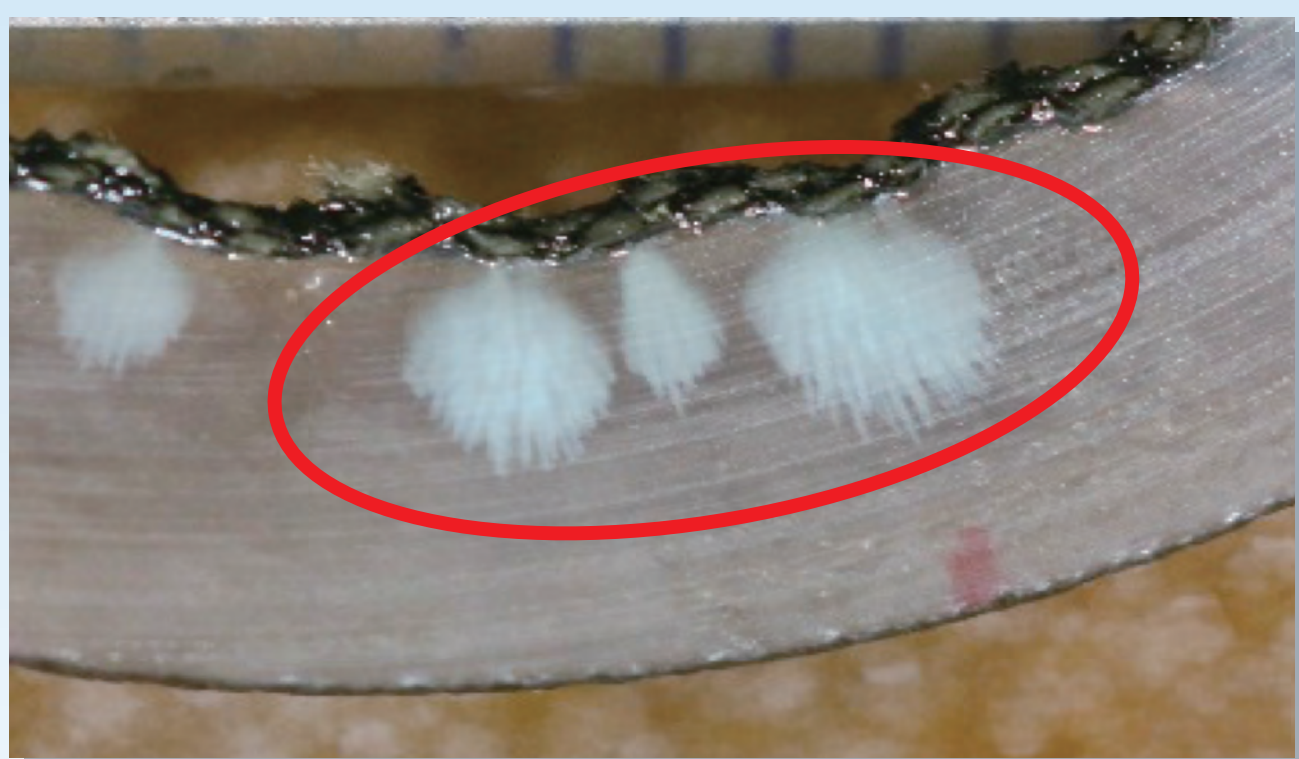


# 3kV~22kV CVケーブル劣化診断

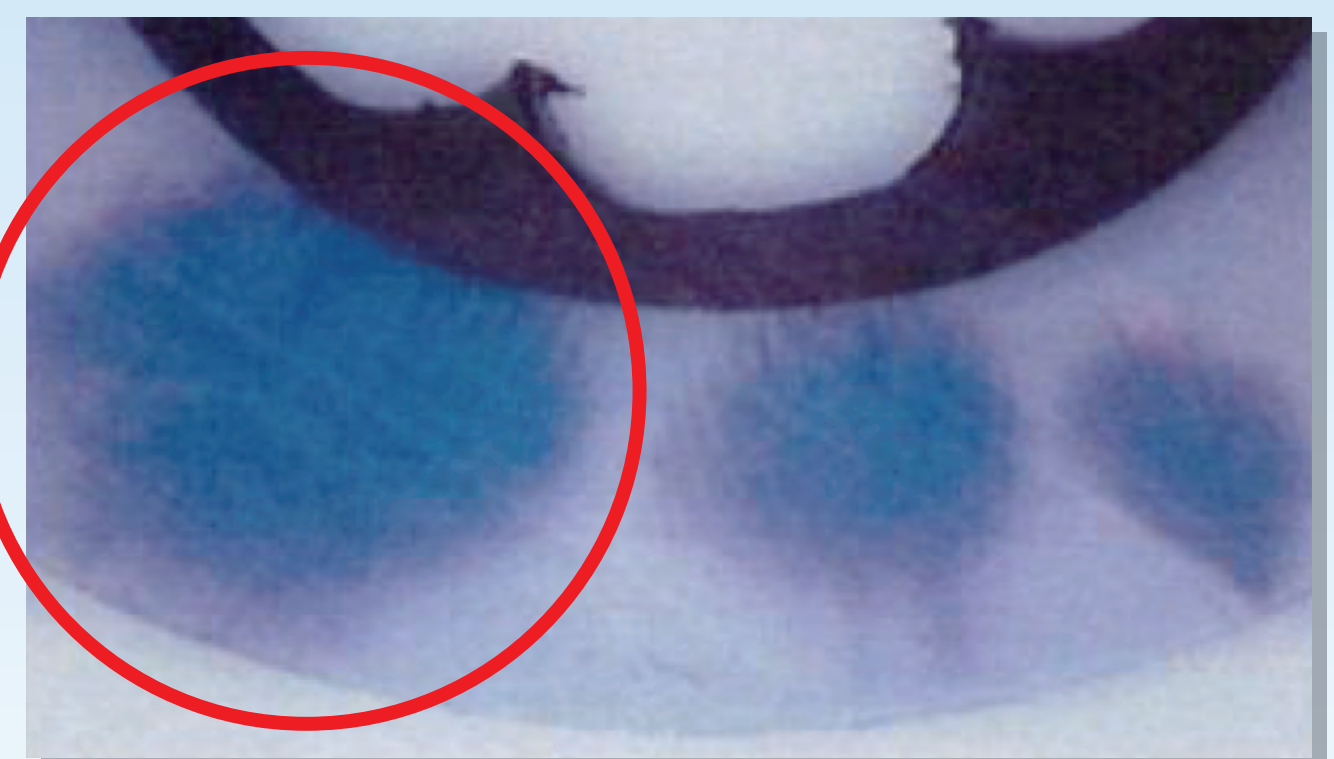
## 特 徴

- 敷設から、長期間経過している高圧CVケーブルの事故原因のうち、35%が水トリーに起因しています。
- 従来の直流漏れ電流法では困難であった**未橋絡水トリーの検出を、逆吸収電流法を用いて診断します。**診断結果の蓄積によって判定基準を制定しているのは、**日本国内でJFEだけです。**(2017年時点)

診断法	実施業者	特 徴
直流漏れ電流法	当社 他社	従来から主に高圧ケーブルに適用されてきた診断法 直流高電圧の印加がケーブル劣化を加速するリスクあり(試験後に事故を起こした事例あり) 5年以上使用したCVケーブルへの適用は推奨しない(IEEE400™-2012勧告) 未橋絡水トリーの検出：×
交流重畳法	当社 他社	オンライン診断 対象は3~6kV(高圧) 未橋絡水トリーの検出：×
残留電荷法	他社	未橋絡水トリーの検出：○ 対象は22~77kV(特高) 装置が大規模
逆吸収電流法	当社	未橋絡水トリーの検出：○ 対象は3~22kV(高圧/特高) 装置が小規模



未橋絡水トリー(未貫通)



橋絡水トリー(貫通)

## 診断対象

- ・ CV(XLPE)ケーブル(CVT, CV-3C etc.)
- ・ 電 圧：3kV~22kV

- ・ 巨 長：50m~2500m程度(静電容量：0.01μF~2.00μF)
- ・ 停電および、端末両端、遮蔽層の解線が必要になります。



JFE プラントエンジニアリング株式会社